



2026 年 10 月 29 日

報道関係者各位

慶應義塾

第 715 回三田演説会
「人工知能と芸術の深い関係とその未来」開催
AI と芸術——その「脆く新たな関係」に、恐れと希望の目を向ける

自分の意思を多数の相手に伝達する手段として、演説や討論という方法を日本に紹介したのは、福澤諭吉と初期の慶應義塾入門生でした。明治 7 年には三田演説会を組織して一般に公開することとし、また演説や討論の仕方を手ほどきした本や規則を発表して、その普及につとめました。慶應義塾はその伝統を脈々と受け継ぎ、日本最初の演説会堂である三田演説館において、毎年、三田演説会を開催しています。

本年の三田演説会は、12 月 9 日（水）に「人工知能と芸術の深い関係とその未来」と題して、美術評論家・キュレーターの南條史生氏が講演します。本演説会のイベント欄へのご掲載、およびご取材をぜひご検討くださいますようお願いいたします。

Ⅰ. 開催概要

(1) 日 時：2026 年 12 月 9 日（水） 14 時 45 分～16 時 15 分（開場 14 時 00 分）

(2) 講演者：南條 史生（美術評論家・キュレーター）

(3) 演 題：「人工知能と芸術の深い関係とその未来」

最近では人工知能が多く人の決定に関与し始め、開発者自身でさえもそのことの危うさに警鐘を鳴らしている。

最も人間的だと思われる芸術が、果たして人工知能とどのような関係を持ち始めているのか、また、そこに生まれる意味や価値とは何かを問い直すべき時代になったと思われる。

そこで、今その脆く新たな関係について考察し、恐れと希望の目を向けて、未来に臨みたい。

(4) 会 場：慶應義塾大学三田キャンパス 三田演説館（重要文化財）
東京都港区三田 2-15-45

(5) 交 通：JR 山手線・京浜東北線 田町駅下車（徒歩約 8 分）
都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅下車（徒歩約 7 分）
都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅下車（徒歩約 8 分）
<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>



(6) 参 加：入場無料・ウェブフォームから事前予約

<https://forms.gle/yszqW2LNQgdbDy94A>

※定員に達し次第、受付終了予定。



2. 講演者 南條 史生 プロフィール

〔略歴〕

1972 年慶應義塾大学経済学部、1977 年文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。

国際交流基金等を経て、2002 年より森美術館立ち上げに参画、2006 年 11 月より館長、2020 年より特別顧問等を歴任。

十和田市現代美術館総合アドバイザー、アーツ前橋特別館長などを務める。

1997 年ヴェニスビエンナーレ日本館をはじめ、2001 年横浜トリエンナーレ、2006 年及び 2008 年シンガポールビエンナーレ等、数々の国際展でディレクターやキュレーターを歴任。

2007 年度外務大臣表彰を受賞。2016 年フランス共和国芸術文化勲章オフィシエ叙勲。

〔主要著書〕

『美術から都市へ：インディペンデントキュレーター15 年の軌跡』（単著、鹿島出版会、1997 年）

『疾走するアジア：現代アートの今を見る』（単著、美術年鑑社、2010 年）

『アートを生きる』（単著、角川書店、2012 年）

『人は明日どう生きるのか：未来像の更新』（編著、NTT 出版、2020 年）

『文化の力、都市の未来：人のつながりと社会システム』（編著、鹿島出版会、2023 年）

『都市とアートとイノベーション：創造性とライフスタイルが描く都市未来』（編著、幻冬舎、2024 年）

3. 三田演説会について

福澤諭吉は、「演説とは英語にて『スピーチ』と云ひ、大勢の人を会して説を述べ、席上にて我思ふ所を人に伝うるの法なり」（『学問のすゝめ』十二編）と述べています。演説という概念はその当時の日本には存在せず、多くの聴衆の前で自分の意見を述べるという「演説」を実践しながら、試行錯誤の末に創造されました。経緯は『三田演説日記』などの記録に記されていますが、演説の練習を行うにあたり「決して笑ってはならない」と取り決めたというエピソードが「演説会」創始の苦心を端的に物語っています。また、福澤は「演説」「討論」などの言葉も創り出しています。「演説」は「スピーチ」の訳語ですが、福澤の出身藩である旧中津藩で藩士が藩庁に対して意思を表明するために用いた「演舌書」という書面に由来します。「舌」という語句は俗的であったために「説」に換えたと福澤本人が述べています。旧来の言葉に「スピーチ」という新しい意味と実体を与えたことに大きな意味があったとされています。さらに「ディベート」の訳語を「討論」と定め、「否決」「可決」などの用語が決められました。

*本資料は文部科学記者会、新聞各紙社会部・文化部、イベント欄担当等に送信しております。

*ご取材に際しては、事前に下記までご一報下さいますようお願い申し上げます。

【本イベントに関する問い合わせ先】

慶應義塾広報室（担当：伊東、宮崎）

TEL 03-5427-1541 FAX 03-5441-7640

Email m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>